

柳子傳

子の病はなごに病みぬ心也一と十をう

可良 原を離れず

とど

柿の室の紅き江雨の雨一

か和同屋のい

かた

悲しきは思出と<sup>は</sup>事<sup>り</sup> 序に 一と子等を憐し

おもしろことある

物にさす己の業を思ふとさすかたの心なり居らん

牧場

懐子